

世界初・地域レベルの仙台防災枠組中間評価を発表（仙台市×災害科学国際研究所） (2023/3/11)

テーマ：仙台防災枠組、中間評価、災害統計、官学連携、災害レジリエンス共創センター
場 所：仙台国際センター 大ホール

世界に先駆け、初の試みとして実施した、地方自治体（仙台市）を対象とする国際目標「仙台防災枠組：2015-2030」の進捗状況・災害被害レビューの成果を、仙台市内で開催された市民参加型国際会議「World BOSAI Forum 2023」の開幕に合わせて、3月11日に発表しました。

【刊行物】

仙台市まちづくり政策局防災環境都市推進室・東北大学災害科学国際研究所 2030 国際防災アジェンダ推進オフィス 発行

- 『仙台防災枠組 2015-2030 に係る中間評価報告書』（59p.）（付属資料 49p.）
- 『共同事業 仙台市版仙台防災枠組み中間評価の概要』（4p.）
- Summary of the Midterm Review of the Sendai Framework for Disaster Risk Reduction（4p.）
- 『共同事業 仙台市版仙台防災枠組み中間評価の概要—データ編—』（7p.）
- Summary of the Midterm Review of the Sendai Framework for Disaster Risk Reduction: Data Edition（7p.）

本成果の内容は、World BOSAI Forum 2023 キーノートスピーチとして、郡和子仙台市長が発表しました。

本取組みにより、市の各部署に横断する災害被害統計を一元的に収集・分析し、成果として、枠組の掲げる目標（死亡者・被災者・経済的損失・重要インフラの被害を減少させること等）は達成中であることが明らかとなりました。本成果は、仙台市における今後の政策や市民意識の向上にとどまらず、国内外の政府・自治体の取組みの進展、とりわけ 2023 年 5 月にニューヨーク国連本部で開催予定の「仙台防災枠組」中間評価会合での議論にも貢献することが期待されます。

なお本成果は、2030 国際防災アジェンダ推進オフィスが仙台市まちづくり政策局と共同で進めてきた活動の重要な成果であり、東北大学災害レジリエンス共創センター・2022 年度災害レジリエンス共創研究プロジェクト「「仙台防災枠組」進捗レビューの先駆的取組み：仙台市との協働・実践を通じて」（代表：原裕太）、および科学技術振興機構・社会技術研究開発事業（JST-RISTEX）SDGs の達成に向けた共創的研究開発（SOLVE for SDGs）プログラム「最後の一人を救うコミュニティアラートシステムのモデル開発および実装」プロジェクト（代表：小野裕一）の研究成果の一部です。

評価報告書、概要版冊子（日・英）は、今後、仙台市と当研究所のホームページでも公開予定です。印刷物をご入用の方は、2030 国際防災アジェンダ推進オフィスまでご連絡下さい。

文責：小野裕一、佐々木大輔、原裕太（2030 国際防災アジェンダ推進オフィス）
（次頁へつづく）



評価報告書、概要版冊子（日・英）
（World BOSAI EXPO 2023）



World BOSAI Forum 2023 キーノート
スピーチで成果を発表する郡和子 仙台市長
（仙台国際センター 大ホール）